

陸前高田市への視察研修に参加して

〈そのとき、教育現場は〉

2月25日に陸前高田市を訪れた町立小中学校の先生らは、金賢治教育次長から被災地の子どもたちと教育現場の抱える問題などの話を聞きました。

◆松田町立寄中学校

教頭 根津 憲一

私たち教職員は、とかく心に傷を負った子どもたちに対して、「心のケア」が必要であると、一口に表現してしまいがちです。しかし、心にどういった傷が刻み込まれているか、人によって違いがあります。また、その傷の深さは、体験した内容によって大きく異なるものであることを痛切に感じました。

「創造的な活動への参画ができる機会をつくる」「この二つが「心のケア」を図るうえで、大切な視点と感ぜられました。」
「今後どのような影響が、表面化するのか予想が難しく、長期にわたっての対応が必要である」という金教育次長の言葉が、強く印象に残りました。

◆松田町立松田小学校

教諭 上野 貢大

今回の視察で地震や大きな災害が起これば、学校が避難所になり対応をしなければならぬという心構えを持つことができました。陸前高田市では、停電、情報遮断、寒さに困ったと言

「具体的な行動を示すリーダーシップ」、外部との渉外としては、「マスコミへの対応」や「イベント活動への対応」などもあげられました。また長期の避難所生活では、大人のストレスが子どもに影響することも指摘されました。

具体的方策として、カウンセラーを配置して直接ケアにあたるとともに、教職員のカウンセリングスキルの向上を図る研修を重ねたとの情報をいただきました。「普段の生活をつくる」と



なお山なすがれきが…

震災後に衛星携帯を導入する学校が増えたそうです。教訓を生かして事前に準備しておくものが分かったことも大きな収穫でした。避難所になった学校では、一つの学校で一階が災害対策本部、二階が小学校、三階が中学校、そして体育館が物資置き場になり、校庭には仮設住宅が建ち、とても厳しい状況で学校を再開した所もあったそうです。この状況の中、学校と避難して来た人々との間での良い関係を築くことができたという話を聞きました。子どもたちが避難して来た人々には快く引き受け、スペースを空けてくれたそうです。陸前高田市では、先生たちの献身的な活動や子どもたちの協力があつたことで、避難して来た人々の施設間移動のトラブルは全く起きていないということでした。厳しい状況の中でも、子どもたちや避難して来た人々が共に気持ち良く、という姿に心を打たれました。

本校は、自然豊かな山間部の学校です。山崩れなどの被害により孤立化することが予想されます。今回の研修から寄の子どもたちの安全を図るために、今後の防災対応に役立てていきたいと思ひます。最後に、震災によって尊い生命を失われた方々に対して、心からご冥福をお祈りいたします。

◆松田町立寄小学校

教頭 石川 純一

町で用意していただいたバスが、陸前高田市に近づくと、私の視線は車窓から見える外の景色にくぎ付けになりました。現場の悲惨な状況と、その跡地に生活される人々の心情を思うと、とても心が重く感じられました。

バスは速度が落ち、停車した場所で現状を直視した先には、年に数回しか降らない雪の中に廃墟となった破壊された建物の壁面に残された津波の爪痕が当時のすさまじさを物語っていました。雪のペールに包まれていると、さらに衝撃は大きいものになっていったと思ひます。

◆松田町立松田中学校

教頭 片岡 洋一

『避難の初期対応』について、研修の中で次のようなお話がありました。3月11日、強い揺れが襲った時、児童生徒は日頃の訓練を生かし、教師の指導の下、次のような行動を取りました。

- ①すぐに机の下に潜り、落下物から身を守る。
- ②速やかにグラウンドに移動し、人員点呼を行う。
- ③津波に備えて安全な一次避難所へ、さらに二次避難所へと移動する。

避難の途中で中学生が園児を抱きかかえて逃げた、との報告が印象的でした。また、津波で通信手段が破壊されてしまい、学校から保護者への連絡に大変苦慮したと感ひしました。

※昼休み中の避難訓練、学校長不在時の訓練などが該当します。
③大規模災害の際には、大人も子どもも助け合うことが大切であること。
※幼小中の連携、教育委員会・町の防災担当との連携、学校と地域との連携などを日頃から進める。松田町にも起こる可能性のある大規模地震を思い、とても意義深い研修であったと感ひしました。



研修に参加して熱心に話を聞く先生と議員、職員ら

「3月11日、あれから1年」



島村町長も参列した岩手県と陸前高田市の合同追悼式



いまだに残るがれき



桜ライン311 第1回植樹の河津桜



つぼみをつけた桜



西平畑公園で陸前高田市への募金を呼び掛ける町消防団